

(様式5)

8 学校アクションプラン

平成27年度 富山商業高等学校アクションプラン —1—		
重点項目	学習活動	
重点課題	教科指導の充実と確かな学力の向上	
現 状	・生徒の学習意欲や学習理解度に差が見受けられる。そのため、各教科において指導内容や指導方法の改善を図ることにより、生徒に意欲をもって授業に取り組み、確かな学力を身につけさせることが必要である。	
達成目標	(結果目標) ①指導力の向上を意識した授業改善	(結果目標) ②学習意欲の向上
	(行動目標) 他の教員の授業を、年間3回以上参観する。 (先生も学び合い)	(行動目標) 生徒間で、学び合い教え合いを各自10回以上行う。
方 策	・互見授業週間(年3回)を定め、その間に他の教員の授業を3回以上参観する。 ・参観者は、互見授業シートを記入し自らの授業改善に資する。 ・授業実施者は、参観者の感想・助言を参考に授業改善に取り組む。	・生徒が、学習に関して、わからないことや他の意見・考えを友達同士で教え合う「生徒学び合い週間」(年3回)を定め、期間中には10回以上行わせる。 ・各期間後に学び合いシートを提出させる。
達 成 度	互見授業を行った教員 100%	学び合いを行った生徒 99%
具体的な 取組状況	・互見授業(先生も学び合い)について、昨年度の経験から互見授業週間の実施時期・期間に柔軟性を持たせた。また、若手教員、中堅教員、ベテラン教員を問わず、自分の授業を積極的に他の先生に参観してもらおうとする雰囲気づくり(声かけ)を行った。互見授業シートは、参観者が参観した授業に対する評価や感想、アドバイス等を記入のうえ、授業実施者にフィードバックした。 ・生徒の学び合いについて、この取り組みを単なる期限までに規定の回数を守らせ、提出させるだけの課題(ノルマ)とならないように、定期考査や各種検定試験に合わせ、自らが主体となって学習に向かおうとするきっかけとなるように、担任等との連携を図りながら実施した。学び合いシートは、年度末に1年間にわたる学び合いを通しての感想を報告させた。	
評 価	A	・互見授業は、教員49名(講師等を除く)全員が3回以上の参観を行った。 ・生徒の学び合いは、ほぼ全員が10回以上行った。
学校関係 者の意見	・教科や年齢の垣根を越えて先生方も学び合うという互見授業は、新しい見方、考え方の発見など授業改善ではとても有効と思われる。 ・生徒の学び合いは、現在授業以外の時間帯で行われているが、次の段階では、授業の中で学び合いを設定していただくよう先生方に奨励することも考えられる。	
次年度へ 向けての 課 題	・教員や生徒の感想にも多く書かれていたが、互見授業、生徒の学び合いともに教員の指導力の向上や生徒の学習意欲の向上のいいきっかけになったと思われる。できればこの2つの週間を来年度も継続し、どの程度意欲が向上したかを検証するとともに、この「週間」が「習慣」として定着するようにしたい。	

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった

(様式5)

8 学校アクションプラン

平成27年度 富山商業高等学校アクションプラン —2—		
重点項目	特別活動	
重点課題	部活動の活性化と競技力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none">・本校は運動部17、文化部11の計28部が設置されており、全員部活動制である。・運動部・文化部ともに多くの部が、県大会優勝や全国大会入賞を目指して熱心に部活動に取り組んでいる。昨年度は運動部の全国大会での入賞や活躍、世界大会への出場など成果を上げた。また、商業科種目の文化部の全国大会への連続出場など活躍した。	
達成目標	①全国大会出場生徒の割合 (大会出場エントリー者の延べ人数÷全校生徒数×100%)	②北信越大会出場生徒の割合
	15～22%	30%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・部活動の一層の活性化を図るため、各部におけるトレーニング講習会や技術講習会の充実を目指す。特に競技力向上に努める。・ストレス無く部活動を行うために、部活動の環境整備に努める。	
達 成 度	全国大会出場者138名＝16.8% (3月の選抜大会出場予定者を含む)	北信越大会出場者366名＝44.5% (2月の北信越大会出場予定者を含む)
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none">・顧問の配置について、負担のバランスを考え、一つの部を複数の先生でみるよう配慮し、先生方の負担感を和らげ、ストレスなく指導できるように努めた。・練習試合や合宿や県外遠征などを積極的に取り組み、部活動の活性化に努めた。・受納式・壮行会の司会進行を広報部の生徒にしてもらい、生徒全体で部活動を応援している雰囲気づくりに努めた。	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none">・全国大会、北信越大会の出場について、共に昨年度を上回り目標が達成できた。・全国の強化指定選手もあり、今後が楽しみである。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">・全国大会に限らず、県内大会でも上位で活躍する部活動が出てきたことは、生徒の努力はもとより、顧問の地道な指導が功を奏している証拠と思われる。・個人個人の目標達成や努力した成果についての目標設定について着目することも考えられる。	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none">・今年度は、全国大会出場者割合や北信越大会出場者割合を目標としたが、その数字に表れないが県内大会で、上位に活躍し始めた部活動がいくつかある。それで、来年度は各部活動毎、又は個人個人で達成目標を立ててもらい、その達成度で評価しようと考えている。また個人での目標設定は、選手の意識を高める効果があると考え。・指導者の研修機会を数多く紹介することに努める。・部員不足になっている部活動があり、対策を検討する。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

(様式5)

8 学校アクションプラン

平成27年度 富山商業高等学校アクションプラン —3—	
重点項目	学校生活
重点課題	「富山商業高校いじめ防止基本方針」の策定といじめに対する意識の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none">・集団に溶け込めず、孤立しがちな生徒が少なからず見られる。・部活動・学年・学科・出身中学等様々な要素を含みながら、程度の差はあるものの、様々な形態でトラブルが発生している。・悪ふざけやちょっとした悪戯のつもりが人間関係を壊したり、人を傷つけたりすることに気付いていない、または軽く考えている生徒がいる。・毎年、ネットパトロールから、生徒の不適切な書き込み等の連絡がある。
達成目標	「富山商業高校いじめ防止基本方針」の見直し いじめに関するアンケートで「いじめに関わっていない」と答えた生徒の割合 100%
方 策	<ul style="list-style-type: none">・月一回行われる全校集会（頭髪服装検査）の折にいじめ防止について呼びかける。・各種講話をおこない、身近な事件・事故や事例を知るとともに、ルールやマナーの意識を高め、互いを尊重する気持ちや、いのちを守る態度を身につけることが、いじめの無い学校生活を築くことを理解させる。・各学期末にいじめに関するアンケートを行い、いじめ防止の意識を喚起する。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none">・いじめに関するアンケートで「いじめにかかわっていなかった」と答えた生徒は1・2学期とも1パーセントで目標は達成できなかった。・いじめに関する校内研修会は実施できなかった。
具体的な 取組状況	<p>○学校評議員会・PTA 役員会において平成27年度のいじめに関する取り組みについて報告した。</p> <p>○いじめに関するアンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none">・1・2学期に全校生徒に対していじめに関するアンケートを実施した。・いじめに関するアンケート結果をもとに、担任を中心として、いじめへの早期対応を図っている。
評 価	C 深刻ないじめ問題は発生していないが、誹謗中傷など様々な事案が集団の中で発生・終息を繰り返している。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">・いじめを見逃さない方策と具体的な対処法の研究及び事例の蓄積が必要である。・3年間かけて学年段階的に規範意識を醸成していく取り組みが必要と思われる。
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none">・「富山商業高校いじめ防止基本方針」は、毎年見直しを図りながら学校の実態に合わせて行っていくことが重要と考え、今後も、職員、PTA、学校評議員会との連携を図りつつ見直しを実施したい。・生徒の規範意識や他人を思いやる態度の育成を図り、いじめの根絶を目指す。

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

(様式5)

8 学校アクションプラン

平成27年度 富山商業高等学校アクションプラン —4—		
重点項目	進路支援	
重点課題	・自己の個性や適性を知り、能力に合った進路選択 ・職業観・勤労観を身に付けさせ、社会状況の変化に対応した進路指導 ・進路指導の組織的・計画的な取り組みを通して、効果的な支援策の施行	
現 状	・職業観・勤労観に関する意識が希薄な生徒は進路選択が遅れる。 ・自らの進路をあまり深く考えず、安易な選択を望む生徒が見られる。 ・ここ数年、就職を希望する生徒が多くなっている。 ・憧れと自己の実力が見合わないままに、進路選択を行い、結果に苦慮する生徒がいる。	
達成目標	①生徒の進路満足度（卒業時）	②就職者の内定率
	98%以上	100%
方 策	・進学希望や就職希望の如何を問わず、自分の将来を主体的に考えさせ、短絡的ではない進路選択を行うよう指導する。 ・個人面接・ホームルーム・進路説明会を通じて、生徒の志望の実態を把握し、家庭との共通理解を図る。その際生徒・保護者に適切な情報を提供できるよう資料の充実を図る。 ・進路意識の啓発やその実現を目指す目標に向かって努力する生徒に対して、全教員による面接指導や個別学力補充の場を提供する。 ・進学から就職、就職から進学といった志望変更が安易な形で行われることの無いよう、生徒と十分に話し合い、自分の考えを確立させ、ミスマッチのない進路選択につなげる。	・本人が志望動機について、深く考えた上で就職と向き合うための方策として応募前見学等を積極的に勧め、雇用のミスマッチを避ける。 ・生徒の選択の幅を広げるために、教職員による企業訪問をより積極的に行い、求人開拓を行う。 ・希望企業への実践的な面接対策や基本的な学力指導を行い、選考の際に実力が発揮できるようにさせる。 ・企業やハローワーク等の連携を強化し、就職に関する情報の収集に努め、適切な提供を行う。公務員志望者については、模擬試験や、専門学校が実施するセミナーなども積極的に活用する。
達成度	99.2%	100%
具体的な取組状況	・企業訪問については教職員の協力の下、より多くの企業を訪問して状況把握に努めた。 ・就職希望者には積極的に応募前企業見学に参加させ進路意識の高まりに努めた。 ・求人状況も好調であったため、1次選考後も未決定者に対して早い対応ができた。 ・面接指導については全教職員の協力の下、きめ細かい指導が行えた。 ・進学希望者については早期からの情報提供を行ってきた。	
評 価	B	・就職内定率は達成できたが、生徒の状況を把握し教員間の連携をさらに密にした進路指導の充実が求められる。
学校関係者の意見	・生徒の進路意識をなるべく早く持たせる方策が必要である。 (1・2年生からの企業見学の企画など) ・企業の応募前見学へは可能な限り参加させてもらいたい。	
次年度へ向けての課題	・自分の進路について、個々の適性や学力などを客観的に捉えさせ、情報提供や援助を行うことで具体的な志望先について早期の把握に努める。また、学年との連携を密にして資料の充実を図り、早くからの指導を行っていく。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

(様式5)

8 学校アクションプラン

平成27年度 富山商業高等学校アクションプラン —5—	
重点項目	学習活動
重点課題	検定・資格取得の充実
現 状	<平成26年度 全商主催検定1級種目別合格者数> 延べ 480名 ・珠算・電卓実務検定 (159名) ・ビジネス文書検定 (46名) ・簿記実務検定 (108名) ・英語検定 (8名) ・情報処理検定ビジネス部門 (48名) プログラミング部門 (15名) ・商業経済検定 (96名)
達成目標	全商主催の各種検定1級合格 延べ合格者数 延べ480名以上
方 策	・検定取得の達成目標をもたせることにより、生徒の学習意欲を喚起する。 ・基礎基本の着実な定着を図るとともに、生徒の能力を最大限に伸ばすための学習指導体制を充実する。 ・1月に行われる検定については、補習授業を行い、学力の向上を目指す。
達 成 度	・本年度合格者目標、延べ480名に対し522名。 ・多くの生徒が、検定試験の意義を理解し、積極的に検定取得に取り組んでいる。 ・指導する教員も、検定試験対策の授業のみを行っているわけではなく、検定試験対策の授業時間が不足している。今後も、1月の検定対策7限補習授業が絶対必要である。 <平成27年度 全商主催検定1級種目別合格者数>延べ 522名 ・珠算・電卓実務検定 (218名) ・ビジネス文書検定 (30名) ・簿記実務検定 (145名) ・英語検定 (8名) ・情報処理検定ビジネス部門 (41名) ・プログラミング部門 (6名) ・商業経済検定 (74名)
具体的な 取組状況	・入学時より検定試験取得の有用性を生徒に理解させ、上位級取得意欲を高めさせた。 ・検定試験時期には、特別補習を実施するなど検定対策学習を強化した。 ・1月には7限目補習を実施し、問題演習などの時間を増やした。
評 価	B ・目標を大幅に上回ることができた。 ・パターン問題は解けるが、応用力を問う問題に対応できない生徒が多い。
学校関係 者の意見	・学習内容を理解させる指導と解き方、やり方の反復練習を偏ることなく行うことが必要である。 ・企業が求めている力と検定によって身につける力のマッチングについて検討する必要がある。
次年度へ 向けての 課 題	・問題演習に加えて、文章を読み取る力を養成しなければならない。 ・今後、実社会で簿記や情報処理の内容がどのように使われているか、企業での体験的学習なども必要。

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

(様式5)

8 学校アクションプラン

平成27年度 富山商業高等学校アクションプラン —6—		
重点項目	学習活動	
重点課題	「模擬株式会社 TOMI SHOP」を通じた体験学習の充実	
現 状	仕入先研修体験学習や「模擬株式会社TOMI SHOP」の運営を起業家教育や進路学習に役立てている。	
達成目標	①社会人基礎力「3つの能力／12の能力要素」	②「模擬株式会社 TOMI SHOP」の満足度（お客様・生徒）
	自己の3段階評価 A 30%以上 B 70%以上	満足以上の割合90%以上 大変満足の割合60%以上
方 策	(1)「TOMI SHOP 特別授業」の改善 ・「TOMI SHOP 特別授業」を実施し、「TOMI SHOP」に向けて必要な知識を生徒に理解させる。授業後にアンケートを実施し、生徒の変化を把握して取り組みに生かす。 (2)仕入先研修体験学習 ・「TOMI SHOP」の協力企業先で研修を行うことにより、商人のあり方を学び、その成果を「TOMI SHOP」の経営に生かす。 (3)模擬株式会社「TOMI SHOP」（起業家の育成） ・模擬株式会社を設立し、会社組織で店舗経営や販売活動を行う。 ・「株主総会」において営業報告、決算報告、利益処分を行う。 (4)キャリアガイダンスの実施 ・地元経済団体との連携により、勤労観、職業観を育成し、問題解決能力を育て、地域社会に貢献できる職業人の育成を目指すとともに、キャリア教育の充実を図る。	
達成度	A評価12項目中10項目が30%以上 (傾聴力52.1% 規律性54.2%) (計画力25.3% 創造力26.2%) B評価12項目中12項目が70%以上	・お客様 満足以上の割合…約95% 大変満足の割合…約54% ・生徒 満足以上の割合…約93% 大変満足の割合…約63%
具体的な 取組状況	・社会人基礎力の3つの能力と12の能力要素について、生徒に事前・事後に自己評価した。社会で求められている能力について意識し、目的をもって体験学習に取り組むことができた。自ら学ぶ姿勢を育て、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけさせるように、全教員協力のもと取り組んだ。 ・1年生はビジネスマナー教室、2年生はキャリアガイダンス、経理課は経理事務講習会などを実施し、外部より講師を招いて、働くことの意義や社会人として求められることについて講義を受けた。 ・さまざまな場面において生徒指導部や学年などの協力のもと、販売員としてあるべき姿や授業の一環であること、社会で求められていることについて指導を継続的に行った。	
評 価	A	社会人基礎力の自己評価においては、前に踏み出す力・チームワークで働く力において評価できる結果が得られたが、考え抜く力においては課題が残った。生徒の満足度においては目標を達成することができたが、お客様の満足度においては前年度より下がった。今後分析しながら改善していく必要がある。
学校関係者の意見	・社会人基礎力のどの部分の評価が高く、どの部分が低かったか明らかになった。今後は、その評価結果を次の指導内容、方法に生かすことの研究が望まれる。 ・生徒の自己申告による評価に加えて、指導者による評価についても研究してほしい。	
次年度へ 向けての 課 題	育てたい生徒像を明確にし、全教員の共通理解のもと、3年間を通して地域社会に貢献できる職業人を育成していきたい。社会人基礎力の自己評価を継続して実施し、さらに起業家の育成のための方策も考えていきたい。商業科目の授業との関連性を深め、ケーススタディを取り入れ、主体的に考える力を持った人材を育成していきたい。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

(様式5)

8 学校アクションプラン

平成27年度 富山商業高等学校アクションプラン —7—		
重点項目	特別活動	
重点課題	読書への関心・意欲を高め、読書習慣をつけさせる。	
現 状	・雑誌の利用を中心に昼休みの来館者は増えてきている一方で、全く利用しない生徒も多く、読書の動機付けとなる様々な工夫が必要である。 ・昨年度は7教科197時間の授業で図書室の利用があったので、今後も、より一層の利用を呼びかけていきたい。	
達成目標	① 1ヶ月平均の図書館入館者数(延べ人数)	② 授業での図書館利用時間
	400人以上(4月～1月)	年間 190時間以上
方 策	・図書や雑誌の購入にあたり、生徒や教員の希望をより多く取り入れ利用を促進する。 ・授業で図書館を利用された先生方に協力を得て、調べ学習用の蔵書の充実に努める。 ・教科や学年と連携を深め、小論文関連本や進路関係の資料・情報などを積極的に提供していく。 ・より多くの生徒に図書館を利用してもらうよう、本や行事のPRの方法を工夫する。	
達成度	698人(1月末現在)	年間 128時間(1月末現在)
具体的な 取組状況	・図書委員による年1回の店頭選書に加え、校内での選書を年間に4回実施し、より生徒の読みたい本の充実に努めるとともに、先生方からのおすすめ本も優先的に購入した。 ・廊下の棚の上を利用し、進路対策コーナーとして学習関連本の展示を行った。 ・新聞の利用を促進するため、「大学」・「北陸経済」・「とやま経済」などの注目記事の切り抜きや、本校生徒の活躍などを紹介するコーナーを常設した。 ・新聞社の出前講座を利用し、図書委員会の教養講座で新聞の効果的な読み方を学んだ。 ・図書委員による読書感想文を新聞社の「おすすめの一冊」のコーナーに投稿した。 ・いつ来ても親しみやすく楽しい雰囲気のある図書館をめざし、季節や行事にあわせて展示や装飾を工夫した。	
評 価	B	・1月末での月平均の入館者数は698人(1日平均44人)で、当初の予想以上の利用者数であった。 ・授業での年間利用は1月末で昨年を下回り、目標に届かなかった。
学校関係者の意見	・来館を促す様々な工夫が、入館者の増加につながったことは明らかで、素晴らしいことである。生徒は、来館目的に関する事ばかりでなく、必ず他の何かに気づいたと考える。リピーターは確実に増えている。	
次年度へ 向けての 課 題	・雑誌の購読を中心に来館者は増えつつあるが、それらの生徒にいかにして読書の楽しさを知ってもらい、読書意欲に結びつけるか、また読書内容を掘り下げるかを探っていく。 ・蔵書や新聞・雑誌等の資料を、生徒が利用しやすいよう配架を工夫したり、パソコン等の設備を充実させたりすることで学習や進路選択に大いに役立ててもらおう。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

(様式5)

8 学校アクションプラン

平成27年度 富山商業高等学校アクションプラン —8—		
重点項目	学校生活	
重点課題	独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入と学校管理下における災害発生状況の調査および事故防止の徹底を図る。	
現 状	・独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入率は100%を維持しているが、加入は任意になっており掛け金や保護者の同意書が必要のため毎年苦慮している。 ・事故防止の徹底を図るために県や国の事例や発生率を調査し、生徒や授業担当者等への注意喚起や指導に生かしたい。	
達成目標	①加入率の維持	②事故発生率の減少
	100%	9.5%以内(昨年度10.15%:78件)
方 策	・加入に関しては入学式後に保護者へ直接呼びかけをする。 ・生徒の心身の発育や発達や体力、技能等を把握して練習計画を立てるとともに、生徒自身が危険を予知したり、回避したりできるように指導育成する。 ・通学路の安全対策(危険箇所の確認と安全マップの作成)をする。	
達成度	① 加入率 100%達成	② 事故発生率(H28年1月末現在) 7.62%(63件)
具体的な 取組状況	入学式後に保護者へ直接呼びかけをした結果、理解が得られ生徒全員の災害共済給付制度への加入を達成することができた。 2年生を対象にAED講習会(応急処置を含む)を実施し、人命救助や安全についての指導をとおして事故や怪我の防止を呼びかけた。 事故の発生については、体育の授業や部活動における怪我の防止の呼びかけや準備運動等の取り組みなどにもかかわらず、大幅な減少は無く、例年通りの発生状況となった。 通学路の安全対策については、生徒指導部の取り組みに頼る結果となり、安全マップ等の作成はできなかった。	
評 価	C	生徒全員の災害共済給付制度への加入は達成することができたものの、事故発生率については、ほぼ前年並みと予想され、通学途中の事故による怪我は若干減少したと思われる反面、前年同様に部活動中に発生した怪我の比率が高いと思われる。
学校関係者の意見	・保護者の安全安心の意識は高まっているので、100%加入を維持してほしい。 ・事故や怪我の防止の指導の取り組みは、地味ではあるが、繰り返し、タイミングをとらえて行ってもらいたい。	
次年度へ向けての課題	・依然、部活動中の事故発生率が高い。事例を検証して対策を練り、継続的な取り組みを行っていきたい。 ・1学期、2学期ともに学期始めの交通事故発生率が高い。引き続き、注意を呼びかけ、関係部署にも協力を仰ぎながら、ハザードマップの作成にも取り組みたい。	

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった

(様式5)

8 学校アクションプラン

平成27年度 富山商業高等学校アクションプラン —9—		
重点項目	その他	
重点課題	P T A活動への関心を高め、自主的・積極的な参加を推進する	
現 状	<ul style="list-style-type: none">・ P T A総会への出席率は、3学年の進路説明会を同時開催することで50%を超える水準となったが、今後もより多くの会員に出席してもらいたい。・ P T A視察研修の満足度は約80%、食堂利用体験は90%を超えるものであった。	
達成目標	① P T A総会への出席率 50%以上	② P T A視察研修事業・食堂利用体験の満足度 90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・ P T A定期総会の土曜日実施と1・2年生の授業参観・学年別懇談会の同日実施を継続するとともに、3年生は昨年度と同様に進路説明会を同日実施することで保護者の日程的な負担を軽減するとともに、定期総会への参加率向上も図る。また、駐車場確保など保護者が参加しやすくなる環境を整える。・ P T A視察研修先の事前アンケートと実施後の事後アンケートを継続実施し、その内容を踏まえて、より魅力ある研修会となるよう計画を立案する。また、食堂利用体験についても、事後アンケートを参考に、より満足度を高められる計画とする。	
達成度	<ul style="list-style-type: none">・ P T A総会 52.1% (827名中431名参加)	<ul style="list-style-type: none">・ P T A視察研修事業参加者アンケート(回答23名)<ul style="list-style-type: none">① 非常に良かった 10名 43.5%② よかった 8名 34.8%③ 普通・無回答 6名 21.7%・ P T A食堂利用体験参加者アンケート(回答10名)<ul style="list-style-type: none">① 今後も事業継続してほしい 10名 100%② 今回限りでいい 0名③ どちらでもいい 0名
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・ 今年度も保護者が出席しやすいようにP T A定期総会を土曜日午前実施とし、要望の多い公開授業を総会の前に実施した。・ 総会後半で学校からの概況説明を実施し、その後の学年別懇談会につながる内容とした。また、3年生は昨年度と同じく学年別懇談会を含めた進路説明会を同日開催としたことで、多くの保護者に参加してもらえた。(3年生保護者の総会出席率は約73%)・ P T A視察研修事業では視察先の希望調査を3月に1・2年生保護者に対して実施し、過年度の視察先データを加味しながら希望にそった進学先2校・就職先1社をP T A企画委員で選定し、依頼交渉を進めた。・ 視察研修先での研修内容に、本校卒業生の入学・入社してみても感想や高校時代にもっと力を入れて取り組めば良かったことなどを話してもらった。また、富山大学学生協の食堂を利用させてもらうなど、保護者の希望を取り入れた。	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none">・ P T A視察研修事業の満足度は目標値に届かなかったが、総会の出席率とP T A食堂利用体験はとも目標値に達した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">・ P T A総会の出席率が50%を超えていることは貴重であり、ひとえに運営方法の工夫によるものと思われる。・ P T A役員の皆さんが主体的に取り組んでいただけることを希望したい。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・ 今年度の具体的な取り組み内容を来年度も引き続き推し進め、現状より落ち込むことのないようにする。また来年度もP T A定期総会の日には3学年の進路説明会を併せて実施し、保護者の日程的な負担を軽減するとともに、総会へのより一層の参加率向上も図りたい。・ 視察研修や食堂利用体験の参加者が減少気味であり、事前・事後のアンケート結果からより多くの要望を実現できるよう、企画内容を再検討したい。・ 各P T A事業に多くの参加が得られるよう、メール配信などを用いた積極的なP Rを継続していく必要がある。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった